

## 郵便局が手紙教室

著名人講師に全国展開

日本郵政グループの郵便事業会社による初の手紙作成体験教室が1日と8日、東京都新宿区とさいたま市の郵便局で開かれた。文章力や礼儀作法の会得のため、授業で手紙を書かせる学校も少なくないが、同社では新年度以降、全都道府県の郵便局で体験教室を展開し、手書きの良さをアピールしていく。企画の運営を受託したヒーローズエデュテイメントでは、作詞家の秋元康さんらを講師にした企画などを検討している。

2か所で開かれた体験教室

は、「わくわくパズル」温もり伝えて人がつながる」という名で、両日とも小学校中高学年の児童と保護者、約80組が参加した。

まず、プロ野球オリックス・バファローズのマスクott「ネッピー」のデザインなどで知られるイラストレーター松本進さん(59)の指導で、用紙にイラストを描き、これを6枚に切り分けてはがきを作成。最初の1枚にあて名とメッセージを書き込んで投函した。

が届くとイラストが完成する仕組みだ。継続して手紙やはがきをやりとりする喜びを感じてもらいたいという願いがある。

ある母と娘は、「だれに出そう?」「おじいちゃん、おばあちゃんがいいんじゃないの」「そうだね、そうしよう」と話し合っ

て、ペンを走らせていた。

同社の調べでは、郵便物の引き受け数は、2001年度の約22.8億通をピークに毎年減少を続け、07年度は約18.9億通まで落ち込んだ。

そんな背景があつての全国展



手紙作成体験教室で指導する松下さん(右)(東京・新宿で)

開だが、教育の現場では今も授業で手書きの手紙を書かせる学校が少なくない。特に礼儀作法を重んじる私立の女子校が熱心だ。例えば、横浜雙葉(横浜市)、洗足学園(川崎市)の両中学では、両親や目上の人にあて手紙を書かせ、教養を身につけるとともに、自分を見つめ直すことに役立てている。

中学1年の時から手紙を書く経験を積ませている日本女子大付属中(同)の国語科教諭、野中友規子さんは「正しい敬語を使い、相手によって言葉遣いを変えなくてはいけない手紙は、礼儀や敬語を学び、文章力を養うのに効果的」と話している。

(二居隆司)